

平成28年度 伊那市立高遠北小学校評価表 学校関係者評価;(A;十分達成された B;ほぼ達成された C;不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a:十分達成された b:ほぼ達成された c:不十分であった)

		重点目標(中長期的目標)	総合評価			
なかよし学校 がんばり学校		日本一の「なかよし学校・がんばり学校」 (1)なかよしの輪を広げよう (2)学び合い、発言力と表現力を高めよう (3)心と体を鍛えよう	○学校教育目標の具現のため左記の3つを重点に児童の指導に取り組んできた。子どもたちは、学級・連学年・なかよし学年・縦割り班・通学班等の中で、人との関わり方を学びなかよしの輪を広げてきた。 ○自分の思いや考えを持ち、表現しようとする子どもを目指して、図画工作科を中心に、全校研究・一人一公開に取り組み、日常の授業改善を行ってきた。更に、ICTを授業に活用し、長谷小学校との遠隔交流にも取り組んだことで、相手意識をもって表現する力が育成されてきている。また、小規模校ならではの良さを生かし、繰り返し学習や個別指導を行うことで、個人差はあるが、概ね児童の学力の定着が見られている。地域を学ぶ日、高遠そば作りなど、地域の方々にご指導いただいた体験的な学習を通して、子どもたちが地域の方々の関わりを深め、ふるさとを愛する心が育まれてきている。 ○代表委員会による毎朝のあいさつ運動を継続して行った。あいさつについて全学級で話し合うことを通して、その意義や良さを再確認して、自主的なあいさつができるようになることを目指している。 ○「体力づくり」を日課表に位置づけ、マラソンや大縄跳び等に積極的に取り組んだ。また、児童会で「遊びの日」を設けたことにより、遊び込む姿がみられるようになり、体力面での向上が見られた。			
		今年度の重点目標	評価	改善策・向上策		
		(1) なかよしの輪を広げよう ・自分から進んであいさつする子 ・様々な人々との体験・交流を通して、視野を広げていく子 ・学校や郷土を愛し、自分の住む地域を語る子 ・友だちの良さを認め、自分の長所を伸ばしていく子	○代表委員会による毎朝のあいさつ運動や地域の方と共に「信州あいさつの日」の活動に取り組んだ。あいさつが、やや形式的になってきてしまっていたため、あいさつの意義やあいさつをする時の気持ちなどを全校で考え合う機会を設け、あいさつの大切さを再認識した。また、児童会の役員と相談しながら、「遊びの日」を毎週設け、全校・縦割り班・なかよし学年同士での遊びを行う機会を増やしたことで、休み時間に学年の枠を超えて遊ぶ姿が増えた。 ○通学班の中で、悲しい思いをしている児童がいたことがアンケート調査で判明し、学校全体で指導にあたった。人を傷つけないように生活をする事について、どうしたら自覚が持てるのか考えていく必要がある。	Ab	○あいさつをする事の意味について、児童集会で「あいさつの大切さ」を訴え、全校で考える場を設けた。 ○道徳や教育活動全般を通して、人権感覚を磨き、思いやりの心を育てていく。 ○通学班の登下校の様子や休み時間、放課後の遊びの様子などにも気を配り、児童の人間関係を把握していきたい。	
		(2) 学び合い、発言力と表現力を高めよう ・互いの思いや考えを聞き合える子 ・自分の思いや考えを進んで発言する子 ・時や場に応じて自分の言葉で語れる子 ・分かるまでねばり強く学習する子	○全校研究テーマ「自らの思いや考えを持ち、表現しようとする子ども」のもと、図画工作科を中心に全校研究授業や一人一公開を行い、研究を進めてきた。また、ICTを活用し、長谷小学校と遠隔交流授業を行ってきた。これらのことから、多様な考えに触れたり、相手意識をもって、自分の思いや考えを伝えたり、友だちの意見を受け止めたりしながら追究する姿が見られ、表現力の高まりが見られるようになった。	Ab	○自分の考えをもつために、まず、自分の考えを書くという学習場面を意識して設定していきたい。日頃の学習や生活の中で表現力を伸ばしていけるよう、更に、自分を安心して出し切れる学級・学校づくり、授業の中で児童が思いや考えを伝え合う場の設定等を工夫していく。	
(3) 心と体を鍛えよう ・進んで読書する子 ・運動に親しみ友だちと励まし合いながら体を鍛える子 ・健康に留意し、自分の体・命を自分で守ろうとする子	○朝、休み時間に加えて昼休みに図書館を開館、自分の読書量や傾向をひと目で見ることができるようにした「読書通帳」、読書旬間の取り組み等を通して、読書活動を推進することができた。しかし、読書を進んで行う子となかなか図書館で本を借りて読むことができない子がいて個人差があった。 ○「体力づくり」や「遊びの日」を設定したことにより、児童の体力の向上につながった。また、「歯の日」「健康月間」などの健康教育や安全教育の地道な取り組みにより、児童の健康面の向上が見られた。	Ab	○児童会での取り組みを工夫したり、読書旬間を充実させたりして、更に、読書活動を推進したい。 ○児童が自ら判断し避難することを身に付けるため、防災教育や避難訓練を定期的に位置づけて「自分の命を自分で守る」ことができるようにしていく。 ○毎月8の付く日に「歯の日」を設けているが、継続して取り組んでいきたい。生活習慣や歯科指導については、学級指導をするともに、家庭への働きかけ連携して指導をしていきたい。			
領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育課程	教育課程	○楽しく成就感のある教育課程の展開	○個々の児童につける力・伸ばす力を明確にした計画的な教育課程を展開しようとしたか。	○児童や地域の実態に合わせ、一人一人の願いを大切に生活科・総合的な学習の時間の充実や「暮らしのなかの食」「地域を学ぶ日」等の自然・歴史・地域から学ぶ活動、「自然で学ぶ日」等の縦割り班の活動、副学級の友だちや保育園の友だち等との交流、地域の諸行事への参加等、特色ある活動や学習を行う事ができた。	Ab	○年間計画や内容の見直し等を行い、行事に追われることなく児童が落ち着いて学習に取り組めるようになりたい。「高遠そばづくり」は、全校で協力して取り組み、地域の事を学ぶ良い機会になった。無理なくできるような形を更に、検討していきたい。
		○児童の考えを大事にする展開	○児童会や行事ほか、学校の教育課程を児童の考えを中心にして展開しようとしたか。	○児童会や「みやのはらの時間」での縦割り班活動、学校行事「自然で学ぶ日」「みやのはら祭り」等で、児童が中心に活動できるよう支援をしてきた。児童が主体的に活動する姿が見られるようになった。委員会によっては、教師の側から手を出し過ぎたかと思われることもあった。	Ab	○児童が主体的に学習を展開していけるような支援をしていきたい。児童会では事前に打ち合わせをして、児童が考える時間をとってほしい。振り返りを行うことで新たなめあてを持てるようにし、成果が児童の目にも見えてくるような児童会活動を大事にしていく。
		○特色ある教育活動の展開	○児童・学級・学校の個性を生かした教育活動を展開しようとしたか。	○生活科の学習や総合的な学習の時間の中で、学級園での野菜作り、保育園の友だちや副学級の友だち等との交流学習や地域の歴史や文化を追究する学習、劇や歌を通して表現する学習等、実態に応じ、各学級の個性を生かした学習を展開することができた。	Ab	○児童が自分の願いをもち、その実現に向けて主体的に追究を行う学習を大切にしていきたい。 ○地域講師や地域の資源を更に積極的に活用し、地域の良さや人々の生き様を感得する学習を展開していきたい。
	学習指導	○「分かる授業」の実践	○「ねらい・めりはり・見とどけ」の3観点を意識した授業展開をしようとしたか。	○「学習問題」「学習課題」「まとめ」等の板書用の学習シートを活用した。自分の考えを伝え合う場を設定する授業展開が心がけた。社会科では、学習カードを用意し、学習問題をipad・資料集・教科書で各自で追究した後、全体追究をし、最後にデジタル教材で確認した。今までの授業より、意欲的に学ぼうとしていた。	Ab	○今後も、全校研究や一人一公開授業を通して、互いに学び合い、授業改善に取り組んでいきたい。
		○自ら生き生きと学ぶ子どもの育成	○個が生きる学習方法や学習形態・支援の工夫追究をしようとしたか。	○学習課題を明確にし、一人一人が活躍できる場の設定を行った。個別支援が必要な児童には、支援会議を設け、関係職員で支援の方向について話し合った。必要に応じて、学習支援係が支援に入り、基礎学力の定着に向けての個別支援を行った。	Aa	○学習における自分のめあてを持ち、振り返りを大切にすることで学習意欲を高めていくことができるようにする。 ○校内就学指導・学習支援委員会の役割を充実させ、個別学習が必要な児童を支援していく。
		○表現力の育成	○児童の表現力を高めるための授業展開ができたか。	○自分の考えが出せるよう、学習カードに自分の考えを書く場を設定し、それらを机間指導の時に教師が把握しておいてから話し合いをした。多様な考えを自分から進んで出そうという雰囲気になっていった。 ○ICTを活用して、長谷小学校との遠隔交流を行った。相手意識をもって表現する力の育成や多様な考え方にふれ自分を豊かにすることにつながっていった。	Ab	○自分の考えをもてるような個人追究の場面や考えを伝え合う共同追究の場を大事にし、自信をもつての発言・発表につながるような支援をしていく。教室の机の配置を固定するのではなく、授業内容によって配置を変える等の工夫をしたい。 ○学校・地域での発表の場やICT遠隔交流の場等を活用し、表現力を更に高めていく。
		○基礎学力の定着	○漢字・計算ドリルへの取り組みによって、基礎学力の定着を図ろうとしたか。	○「ドリルの時間」を日課表に位置づけ、漢字や計算を中心に学習を継続してきた。なかなか、家庭学習に取り組めない児童がいたが、漢字学習だけはがんばってやろうという意欲を持てるようになった子もいた。放課後学習支援事業を立ち上げ、希望者には学習支援を行った。	Ab	○日課表にドリルの時間を引き続き位置づけていく。 ○配布した「家庭学習の手引き」を活用できるよう働きかけ、家庭との連携をしながら家庭学習の充実を図る。
	生徒指導	○児童理解に基づいた個々の児童への指導	○学年の枠を超えて、全職員で全児童を育てることができたか。	○職員会の中で、生徒指導の係を中心に、児童の様子や情報交換を行い、教育課題を共有して指導を行うようにした。児童の様子や成長の姿等の情報交換ができるよう全職員が、縦割り班の活動等で全学年に関わった。個別支援が必要な児童については、校内支援会議を設け、支援についての対応をし、学校の支援体制を整えることができた。	Aa	○各学級で配慮を要する児童についての情報交換を職員会の中に位置づけ、指導の方向を共有する時間を継続していく。必要に応じて、校内支援会議を設け、指導・支援の方向を話し合う。また、校内支援会議等での内容を全職員が周知し、統一した指導をしていけるようにする。
		○組織的な対応	○問題が起きたとき、組織的に対応できる学校体制を整えることができたか。	○問題について、生徒指導係を中心に、関係職員で連携をとり指導にあたった。 ○いじめ等については、日常的な児童の様子や人間関係の観察、アンケート調査を定期的に行い実態把握に努めた。	Ab	○問題が生じた時には、生徒指導係が中心になり、全職員で情報を共有し、迅速な対応に心がけたい。各児童や児童の人間関係の様子に常に心を配るとともに、アンケート調査を定期的に行い、いじめ等の実態把握に努めていきたい。アンケートで掘んだ人間関係の問題についても、全職員で情報を共有し、迅速な対応に心がけたい。
○人権感覚の育成		○学校生活全般を通して、豊かな心の育成に努めたか。	○なかよし旬間を設け、福祉体験・講演会・作文発表などの取り組みをした。 ○児童会による「いとこめがね」の掲示、なかよし標語の掲示等の環境作りにより、児童の意識の継続を図った。また、縦割り班活動を充実させ、子ども同士が関わる機会を増やし、なかよしの輪を広げた。	Ab	○引き続き、縦割り班での活動や交流活動等を進め、相手意識を持ち、なかよしの輪を広げていくようにする。 ○道徳の授業の充実を図り、人権感覚を磨いていく。 ○読書活動の推進や家庭読書、ノーゲーム・ノーメディアデーの取り組みを家庭と連携して取り組む。	
学校運営	安全	○安全の確保	○安全指導がきめ細やかになされ学校の安全が確保できたか。	○通学班会を月始めに設定し、児童が自分たちの登下校の仕方を振り返り、月目標を決めることにより、安全に登下校することを意識づけてきた。また、不審者対応訓練、避難訓練、交通安全教室、引き渡し訓練等を行い、児童や保護者の事故や災害に対する意識が高まるよう努めてきた。大きな事故もなく、年間安全に生活することができた。また、安心安全メール等を活用し、家庭との連絡を行った。	Aa	○登下校については、高学年を中心に、バスの中での過ごし方や集団下校での歩き方等、約束を守り安全に登校できるように、通学班会等で指導をしていく。また、定期的に学区内の見回りをし、危険の把握に努める。 ○通学路工事、感染症等の情報は速やかに共有化を図る。保護者への連絡は、必要に応じて、学校からの通知や安心安全メール等で対応していく。
		○家庭・地域の方との情報交換	○通信などを通して学校の様子を積極的に知らせたり、情報交換をしたりして、家庭ときめ細やかな連携をすることができたか。	○学級通信、学校便り等を通して、学校での様子をお知らせしてきた。また、各家庭に安心・安全メールに加入していただき、連絡を迅速に行い、児童の安全確保について家庭と連携することができた。情報発信により、学校の様子を知らせることができ、学校運営等について、保護者を始め地域の皆様にも理解をしていただくよう努めた。年2回「北小子どもを守る会」を開催し、保護者・地域の方と情報交換を行った。今年度も改訂した「家庭学習の手引き」を作成・配布した。	Aa	○学級通信や学校だよりを通して、学校の様子を家庭や地域に発信していく。「北小子どもを守る会」での、地区毎の情報交換を充実させ、地域で子どもを育てていく体制を構築していく。 ○学級懇談会で扱う等の働きかけにより「家庭学習の手引き」を活用してもらえるよう家庭へ呼びかけていく。
	家庭・地域との連携	○地域の素材・人材の活用	○地域の素材を生かした教材や保護者・地域の人々に参画してもらった授業や活動を行うことができたか。	○読み聞かせボランティア、放課後学習支援等、地域の方に入ってもらって活動ができた。 ○「高遠そば作り」「孤軍高遠城」「地域を学ぶ日」等で地域講師にご指導いただいた。生活科や総合的な学習の時間の学習の中で、地域の方との関わりながら学ぶ事を通して、ふるさとに愛着を持つ心が育ってきている。地域の方々の支援を受けながら、「きつねにだまされた話2」の活動を進め、地域の文化を伝承していこうという意欲を持つことができた。	Ac	○信州型コミュニティースクール運営委員会を通して、学習支援ボランティア等の地域講師を活用や学校運営についてのご意見をいただきながら、地域とのつながりを大切にした学校運営を行っていく。
		○職員の自覚	○服務規律や綱紀についての自覚は高くもっていたか。	○市内の教職員による事案に心を痛め、非違行為は絶対に起こさないという意識のもと、職員会時に短時間の研修の時間を設け、事例を読んだり、小グループでの話し合いをして学校長からの指導を受けたりしてきた。	Ab	○非違行為防止については、意識を継続していくことが大切となるので、研修は必要であるとする。職員会での研修の時間を位置づけ、事案等を取り上げ、非違行為防止について、全職員で意識を継続させていきたい。また、日頃から職員間で何でも話が出来るような雰囲気を作り、悩みのある職員が一人で抱え込まないようにしたい。
研修等	○自己研鑽・研修の工夫・改善	○自ら求めて、研修に臨むことができたか。(自己研修を含む)	○こんやく作り・外国語活動伝達講習・ICTの活用の仕方等、同僚性を発揮した校内研修を行う事が出来た。 ○一人一公開を通して、自らの授業力の向上に努めることができた。	Ab	○職員間で自分の得意な分野について教え合う場を今後も計画し、教材研究につなげていきたい。 ○一人一公開等を通して、互いに学び合い、授業力の向上に努める。	